

# 授業公開報告書

提出者：渡邊弘純

担当者：渡邊弘純

科目名：心理学演習（受講者 10 名、教育心理学専修専門科目・必修）

日時：12 月 2 日（火） 5 時限

場所：2 号館 2 階 演習室

指定参加者：橋本 巖

カンファレンス：授業終了後 18 時から 19 時まで

授業者以外の参加者：長尾先生，橋本先生（指定参加者），富田先生（教務委員）

カンファレンスの参加者：長尾先生，橋本先生（指定参加者），富田先生（教務委員）

## <授業の枠組み—シラバスから>

受講者各自が自分の関心のある研究テーマを選択し、英文文献（5）と邦文文献（5）をインターネットで検索し、文献を記載する書式に従って報告書にまとめて提出する。1 回。

雑誌論文の構成を学ぶため、受講者全員で、著名な論文を全訳する（注記も含む）。4 回。

受講者各自が選択した英文論文 1 編（原則 2000 年以後）について、抄録と図表は全員で読み、論文全体は選択した受講者がレジュメにまとめて報告し、全員で討論する。10 回。

## <授業者の意図>

受講者が、世界の第一線の論文に触れ、「やればできる」という達成感を味わい、自信を持つことを第一の目標とした。以後の人生で、どの分野の課題でも、世界中の知恵を集めて考えることができると思ってくれればと思う。卒業論文の基礎、あるいは大学院進学（入学当初は半数が希望）のためという実利的意図もある。

## <授業の経過>

（1）本時は、*Personality and Individual Difference* 誌に掲載されたユーモアに関する論文の要約と表を受講者全員で読んだ。

（2）この論文を選んだ受講者が、全員に配布したレジュメをもとに、その内容を報告した。

（3）論文の内容について、受講者全員で討論した。必ずしも、十分な時間は取れなかった。

（4）担当教員は、適宜、助言を行った。

## <カンファレンスの内容>

### —授業者の感想—

・今日は公開授業のためか、学生がいつもより緊張していたように見えた。通常は積極的に発言していた学生が必ずしも十分には論を展開しなかった。時間の関係もあるが、もっと議論になればよかったと思っている。

・今日の発表者はきちんと英語の本文を読んできていた。全訳をしており、内容をよく把握していた。（後記）発表者は、十分な達成感を得ていた。

- ・表題、アブストラクト、及び表や図のタイトルと内容は、必ず読んで訳してくるように言っているが、一人の学生は、これを読んできていないのが分かった。
- ・今年の学生の傾向は、昨年までと異なり、情報検索のスキルが高かった。
- ・学生は毎年この授業を通じて1つ成し遂げたという達成感を得ることが多い。  
(後記) 2年前までは、一人2本読むことにしていたが、討論ができないので、昨年より一人1本にした。

#### —参加者からのコメント—

##### ・ 橋本先生

- しっかりと英語の論文を読む時間はなかなかゼミの時間でも確保できないので、同じ教育心理学専修としては、ゼミ指導にも大変役立つ内容だと感じた。
- 3年生前期に設定されている心理学調査法の次にこの授業が行われるので、この順序性は良いと感じた。
- Q: 時間外での教員への質問は多いか?  
✧ A: ほとんど来ない。

##### ・ 長尾先生

###### <参考になったこと>

- 言葉を時に整理すると、頭を整理するのに良かった
- 全員に指名することで参加が促せた
- 学生のレジュメは立派でした。

###### <気になったこと>

- 論文の中に、各種の方法論があり、その内容の注釈の付け方が難しいですね。

###### <その他>

- ここまで英語をしっかりと読ませるには教室員一致団結して方向性を定めての指導が前提となっていると感じた。

##### ・ 富田先生

- 表題とアブストラクトと表タイトルを読ませるという方法は、限られた時間内に論文の全体像をまず学生に理解させるために役立つと思った。
- 教員になる学生は、自分自身が優れた学習者である必要がある。そのため困難な英語論文の読みこなしを乗り越えたという体験は教員としても大事なものになると思われる。

#### <授業公開後の展開>

公開授業後も、着実に各受講者が自分の選んだ論文を発表し、それぞれが達成感を味わっている。受講者は、他者の発表についても関心を寄せ、授業そのものも盛り上がっていると感じる昨今である。若干の危惧：発表が終わり頃に予定されている若干名について、きちんと報告できるか危惧している。教員は、最大限の助力をすと言明しているが、現在まで、学生から相談や援助を求めている訪問はない。